

## 令和8年度防衛講話

令和8年6月5日、第4航空群司令部首席幕僚 鷺澤公一 1等海佐による防衛講話を拝聴しました。

講話では、海上自衛隊が運用する救難飛行艇「US-2」の任務や活動内容について説明がありました。US-2は海難救助や患者輸送、災害派遣などに活躍しており、海上における人命救助の最後の砦ともいえる存在です。

また、飛行艇の歴史についても紹介がありました。日本の飛行艇は旧日本海軍時代から受け継がれてきた長い歴史を持ち、現在のUS-2に至るまで、その基本的な艇体形状や技術思想が継承されています。

講話では、飛行艇開発を長年担ってきた川西飛行機（現・新明和工業）の技術者たちの功績にも触れられました。中でも、九七式飛行艇や二式大艇の設計に携わった菊原静男博士が確立した艇体設計は、現在の飛行艇にも受け継がれており、飛行艇としてほぼ完成形に到達した設計であるとの説明がありました。日本が世界に誇る飛行艇技術の高さと、その技術が長年にわたり継承されていることを知る貴重な機会となりました。

また講師からは、「飛行艇乗りは海軍航空の流れを受け継ぐ本流であるとの誇りを持って任務にあたっている」との紹介もありました。飛行艇部隊が受け継いできた伝統と使命感、そして人命救助にかける強い責任感を感じることができました。

さらに、実際の救難活動事例も紹介されました。洋上で遭難した航空機搭乗員や漁船乗組員の救助、離島における患者搬送など、厳しい環境の中で人命救助にあたる隊員の高い技術力と献身的な活動に深い感銘を受けました。

今回の講話を通じて、海上自衛隊が担う救難任務の重要性と、日本が世界に誇る飛行艇技術への理解を深めることができました。飛行艇は人命救助のために活躍するだけでなく、日本の航空技術と海洋国家日本の歴史を今に伝える存在であることを改めて認識する機会となりました。

大和市自衛隊協力会では、今後も自衛隊への理解促進と防衛意識の向上に努めてまいります。



(文責 理事 菊地 聡)